

牛はかけがえのない家族

とっても幸せな天塩での暮らしを伝えていくのが私の使命

慕 正怡 (ムズニー) さん、(愛称^{エミ}Emiさん)

天塩町地域おこし協力隊

1985年台北市生まれ。大学では土木工学と教育学を専攻。職歴はサービス業と小学校の教員。趣味はロッククライミング。

北海道に移住（Uターン、Iターン）して、新たな取り組みを行う輝く人を紹介するインタビュー。お話を伺うのは、北海道各地を探訪し想いを形にする人との出会いをつなぐ、地域プロデューサーかとうけいこさん。

第3回は台湾出身の慕正怡（Emi）さんです。

天塩町とのご縁について教えてください

2019年4月から地域おこし協力隊として天塩町に暮らし始めました。でも、天塩町に暮らすのは初めてではないのです。最初は3年前の2016年4月に、台湾からワーキングホリデーで研修生として8カ月滞在しました。その時は酪農家の中嶋仁志さんにお世話になりました。帰国後、夏休み、冬休みのたびに天塩に遊びに来ていました。牛に会いたいの理由で、帰るときには毎回泣いていました。その他、中嶋さんが研修生OGと台北でお食事会を行う同窓会的な集まりに必ず参加していました。何とかしてまた天塩で牛と暮らすことが出来ないか考えていた時に地域おこし協力隊の募集情報を知り、早速応募しました。

牛と暮らすために天塩を選んだわけですね

そうですね。台湾の自宅でシベリアンハスキーを飼っていたこともあり、大型の動物がもともと好きでした。気が付いたときには、牛が愛らしくて好き過ぎで牛と暮らすには酪農に従事するしかないと考えていました。

ワーキングホリデー申請時には、日本とニュージーランドのどちらかで酪農に携わりたいと迷いました。最終的に日本を選んだ理由は、中国語と英語以外の言語を使った暮らしをしてみたいから。ワーキングホリデーのコミュニティの中で、天塩町の中嶋牧場を知り応募しました。多くの牧場は2カ月程度の短期就労が多い中、長期で研修が出来ることや、経験者の評価が高かったことが最大の理由ですね。「暑がりやで、寒さに強い牛」は、私に似ていますよ。

日本語はいつから勉強したのですか

ほぼ独学ですが、最初の4カ月は週一回、日本語の先生に習いました。ワーキングホリデーが決まると

きから勉強を始めたといってもいいですね。中嶋さんのお宅でおじいちゃんおばあちゃんと、もう一人の台湾人女性の研修生と4人で同居したことが、私の日本語が上達した理由だと思っています。間違った日本語を話してもずっと聞き続けてくれて、丁寧に直してくれました。指導という堅苦しいものではなかったのがありがたかったです。日本語のテキストは台湾で売っているものより、日本の書店で日本人が中国語を学ぶテキストの方が役に立ちましたね。

天塩町民に中華圏の文化を教えているそうですね

地域の方々を対象として定期的に開催しています。6月から「中国語セミナー（初級編）」をスタートし、3回実施しています。リピーターが多いので、やりがいがあります。中国語の語学講座だと難しいと感じる方もいるかもしれないので、台湾の食や文化について伝えるようにプログラム作りをしています。3歳の時から祖母、祖父と一緒にしていた餃子作りは、予想以上に好評でした。天塩町の地域食素材を活かした台湾式餃子をプロデュースし、町民の皆さんと一緒に作りあげていきます。近日中に留萌管内の女性団体の会議が天塩町で開催されるので、9つの町の特産物を取り寄せて研究しています。食から互いの文化を理解してもらおうのが一番の早道かなと思っています。

台湾での学生時代、社会人時代はどんな風に過ごしましたか

大学生の頃にはバックパッカーとしてヨーロッパ中心に旅行していました。旅行は新たな発見があるから好きです。社会人になって、休暇には国際ボランティア活動に参加していました。2010年の夏にモンゴル、2011年の夏にネパールに行きました。二つとも2週間位の短期間でしたが、地域の方と生活し得難い経験をいたしました。私の強みは何事にも前向きに楽しく乗り越えられることだと思います。自分はいろいろな人と交流することが好きなのです。



今年の6月からスタートした「中国語セミナー(初級編)」

地域情報をSNSで毎日、中国語で投稿していますね

観光情報、牛をはじめとした農業の情報以外にも、広く情報発信をしています。その結果、台湾人を中心に飛躍的にフォロワー数は17倍、PV（ウェブサイトの閲覧回数）は25倍にも増えました。これには私が一番驚きました。

この日々の活動以外に、会員数15万人を有する台湾で北海道の観光情報を中心に発信しているSNS会員サイト「北海道旅遊情報」の管理人代表と情報交換するなど、影響力のある方とつながる努力もしています。その結果、最初の問い合わせの2カ月後に代表の胡誌麟フーヂーリンさんに天塩町に自費で取材に来ていただくことが出来ました。とても嬉しかったです。

今後についてどうお考えですか

牛と離れて暮らすことは考えづらいですね。牛との暮らしは私にとって基本です。牛は私の子どものような存在だからです。ですから、牛が一番、これは譲れません。その他に何をしたいかと言えば、天塩をはじめとした道北のガイド、教育、翻訳、デザインでしょうか。私は、一つのことだけしていくことが寂しいと感じるタイプの人間なのかもしれません。だから、やりたいことは増えるかもしれませんね。

(2019年8月8日取材)

インタビュー後記

取材した8月中旬時点で、町内の主な飲食店のメニュー、観光パンフレット、マップなどの多言語化、LINEスタンプ作成と、自主的かつスピーディに着々と実績を残しているEmiさん。この10年、道内、国内各地で優秀なスーパー地域おこし協力隊員に会ってきましたが、Emiさんは間違いなくトップ3に入ります。突破力と独創性、そして酪農をはじめとした第一次産業への愛が深い方です。素敵な人と出会えて幸せです。

かとう けいこ (株)まちづくり観光デザインセンター代表